

## 「次世代人材育成ワーキンググループ」における検討状況について

## 現状と課題

- 技術、技能を受け継ぐ次世代の人材については、近年、若者の製造業離れや理工系離れが顕著になっていることから、小・中学校といった早い時期からものづくりに関心を持つ機会を提供するとともに、高校生や大学生等のものづくりに対する意識啓発や職業意識の醸成などを図っていくことが重要

## 検討テーマ

- 製造業（ものづくり）に対する理解促進、職業意識の醸成
- ・子供たちがものづくりの楽しさ、面白さを知る機会を効果的に提供
  - ・高校生、大学生等の製造業への理解促進、職業意識醸成

H20における検討結果を受けて

WG検討結果→さまざまなツールを活用して取組を推進

- ネットワークの関係機関との連携
- 経済産業省の企業立地促進法による人材養成等支援事業
- 厚生労働省の緊急地域共同就職支援事業
- 厚生労働省の緊急雇用創出事業交付金事業
- 厚生労働省の「地域ものづくり人材育成支援事業」(H21新規事業)

## H21取組内容

- 小中学生のものづくり体験機会の効果的な提供（H21）
- ①技能士や関係機関指導員等によるものづくり体験会の実施《赤いカ・チャレンジ事業（道）》
  - ②関係機関共同による工場見学情報（リスト）の提供《非予算事業》
  - ③関係機関共同によるものづくり体験情報（マップ）の提供《非予算事業》
  - ④ものづくり人材（シニアアドバイザー）データベースの充実、マッチング《非予算事業》
  - ⑤ものづくり理解促進に向けた次世代人材育成事業（ものづくり体験会等）  
《地域ものづくり人材育成支援事業（国）》
- 高校生、大学生、若者等の製造業への理解促進、職業意識の醸成（H21）
- ①学生向け工場見学ツアー、スペシャリスト招へい事業の全道の展開《緊急地域共同就職支援事業（国）》
  - ②工業高校と技専等の連携強化（スリッパ講座の実施等）《緊急地域共同就職支援事業（国）、赤いカ・チャレンジ事業（道）》
  - ③普通高校生のものづくりへの誘導（出前講座の実施等）《各高等技術専門学院（道）》
  - ④教職員向けセミナー・職場見学会の実施《緊急地域共同就職支援事業（国）》

## H22に向けた検討の方向性

- 【継続検討項目】○高校生、大学生、若者等の製造業への理解促進、職業意識の醸成
- ・保護者向けセミナーの開催など
  - 次世代ものづくり人材育成応援企業の認証・表彰制度創設
  - ・制度創設に向け、引き続き検討（道内のインターンシップやキャリア教育支援の実態調査実施、他都府県の事例検討等）など
- 【その他新規検討項目の洗出し】

## H22に向けた検討の経過

- ・保護者向けセミナーについては、説明をする際のプレゼンテーションをサポートしたり、効果的な資料の作り方をサポートしたりするような取り組みを事業として行ってはどうか。
- ・保護者向けセミナーは、生徒の工場見学とセットで行えば、さらに理解が促進されるのではないだろうか。
- ・保護者の意識を変えることは重要。
- ・人材を地元で留めて置きたいならば、現場を見てもらう機会を設けるのは良いこと。
- ・修学旅行を活用した理解促進については、行った先で体験するよりも、継続性を考えた場合、地元でやるというのも方向性の一つ。将来の就職を考えた場合、地元の人材を地元でいかに人を残すかという視点も必要。
- ・最初は、認証・表彰ではなく、応援的な形でいいのではないかと、幅広く、気軽に登録できるのが良い。
- ・ハードルを低くして、応援隊としてPR出来れば、企業にとってはそれがメリット。後々の運用もしやすい。
- ・ネットワークとしては、応援団を増やすことでいいのでは。
- ・ものづくり産業、なおかつ次世代という二つの絞り込みでは、間口が狭すぎるのでは。
- ・ものづくりが危機に瀕しているのなら、学校教育の中でもっと取り組む必要＝国単位での大きな取り組みが必要。

## H22取組方向のイメージ

- ・保護者向けセミナーの開催
- ・次世代人材育成応援企業の登録制度（次世代人材育成の応援団づくり）の創設・運営

など

## WGメンバー

北海道経済産業局、北海道労働局、雇用・能力開発機構、北海道職業能力開発協会、北海道機械工業会、北海道中小企業総合支援センター、キャリアバンク、北海道教育庁、北海道（人材育成課・産業振興課・雇用労政課）

## 開催実績

20年度	第1回WG	H20.	9.	25
	第2回WG	H20.	11.	19
	第3回WG	H21.	2.	9
21年度	第1回WG	H21.	9.	18

